KANKO TIMES Vol.7

〈編集・発行元〉
一般社団法人
カンコー教育ソリューション
研究協議会

制作／山陽新聞社広告本部

特集
キャリア教育を考える

【1・2面】人づくり対談 子どもの学びの“轍”は社会総ぐるみで作る　カンコー教育ソリューション研究協議会 尾﨑 茂・文部科学省 長田 徹さん
【3面】地域に学校がある意義を見つめ直す　青森県立金木高等学校 藤澤 重信校長
外部リソースを活用して子どもたちの「体験値」を積ませる　れいめい中学校・高等学校 徳留 秀樹校長
【4面】「探究型学習」をきっかけに、主体的・対話的で深い学びを育む　富士見中学高等学校 大関 朝美先生

掲載記事の詳しい情報はカンコーWEBサイトのメディア情報からご覧いただけます。WEB限定記事もお読みいただけます。
カンコー学生服

おざき・しげる
一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会代表理事、菅公学生服株式会社代表取締役社長。青山学院大学卒業。2006年8月より代表取締役社長に就任。2016年には一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会を設立し、教育現場の課題解決をサポートしている。日本経済団体連合会審議員、岡山商工会議所常議員、岡山県経営者協会常任理事、岡山青年会議所2013年度第63代理事長、岡山県ハンドボール協会会長

ひとづくり対談

一般社団法人
カンコー教育ソリューション研究協議会 代表理事
尾﨑　茂 × 長田　徹さん
文部科学省
初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

子どもの学びの“轍（わだち）”は社会総ぐるみで作る

学校と地域・企業つなぐキャリア教育の在り方

子どもたちの未来を見据え、社会で生きていく力を養っていく「キャリア教育」がこれからの学校教育では求められています。学校での学びが将来職業に就いた時どう生きてくるのか、それを学ぶためには教員が企業や地域と手を携えていくことが不可欠です。学校・企業・地域はどのように関わっていけば良いのか、産業界と教育界の2つの視点からお二人に対談していただきました。

（対談記事の敬称は省略）

おさだ・とおる
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同児童生徒課生徒指導調査官、同高校教育改革PT生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官、同教育課程研究センター教育課程調査官。宮城県石巻市立公立中学校教諭を振り出しに、仙台市教育委員会で学力向上、キャリア教育を担当。2013年より現職に就き、小中高のキャリア教育、中高の特別活動を担当

学びが将来にどうつながるのか――キャリア教育は子どもの〝轍〟を作ること

長田　日本の学校教育が直面している喫緊の課題は、小中高での学びが将来に直結していないこと。つまり学んだことが社会に出てから生かされていないということです。昨年公表された国際的な学力調査では、日本の小学生で算数が世界5位、理科が3位、中学生は数学が世界5位、理科が2位と日本の子どもたちは世界トップレベルの学力を有しています。一方、アンケート調査で「数学、理科を勉強すると生活に役立つか」という質問に対して、肯定的な回答をした子どもの数は世界の下位。学力が高い一方で、「何のために学ぶのか」「この学びが何につながっているのか」という本質的なところが見えていない傾向にあります。

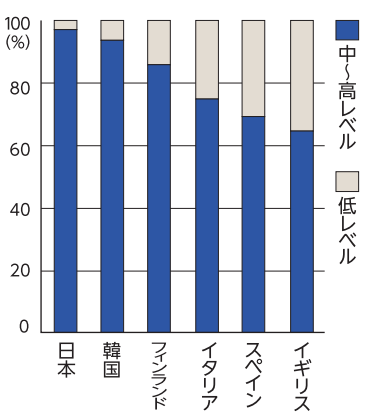
それを裏付けるものとして、世界各国のニート事情について調べた調査では、日本のニートは世界と比べ学力・学歴ともに高いという結果が明らかに。日本は学力・学歴が高くても、それが仕事に結びついていないことを如実に示しています。

尾﨑　たしかに私自身も小中高時代はとにかく勉強したという記憶があります。しかし大学生や社会人になってからは学校で学んだ事が役に立った機会はそうありませんでした。PTAとして学校に関わるようになってからは、「学校で学ぶことの意味が子どもたちに正しく伝わっているのか」という疑念を抱くようになり、「何のために学校で学ぶのか」という疑問は今でも持ち続けています。学校現場に少しでも関わっている私たちが先生たちを含めた学校教育をサポートし、この状況を変えたいという思いから、一般社団法人を設立。誰かがやってくれるではなく、自分たちからモーションを起こす。企業として子どもたちの学びを支援していくことは、学校にも良い影響をもたらせられるのではないかと考えています。

長田　「何故学ぶのか」という疑問を持ち続け、そこから行動を起こしていったことは素晴らしいことですね。「何故学ぶのか」は、次期学習指導要領の柱でもあります。今の学校での学びが、今の努力が、大人になったとき何につながるのか、学ぶ意義を大人たちが明確に示すことで、子どもたちの学びの〝轍〟を作っていく、それがキャリア教育です。ちなみに〝キャリア〟の語源はラテン語の〝轍〟。

轍を作るためには、教員だけに教育を任せるのではなく、地域、企業、家庭など社会が総ぐるみとなって子どもたちの教育を支えていかねばなりません。学習指導要領は法規としての性格を有していますが、法律で網をかければ充実するかというとそれは難しい。学校が企業、地域と積極的につながって実践していくことがカギとなりますね。

ニートの読解力のレベル別割合



出典：経済協力開発機構（OECD）
「国際成人力調査（2011～2012年）」を参考に作成

一般社団法人
カンコー教育ソリューション研究協議会
「子どものみらい、学びのいま」を考える
詳しくはコチラ

平素より「カンコータイムズ」をご愛読賜り、厚く御礼申し上げます。この度、編集・発行元を（一社）カンコー教育ソリューション研究協議会に変更させていただくこととなりました。
今後は、より一層、公益的な立場で学校現場の課題解決に有益な情報をお届けして参りますので、変わらぬご愛読を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

カンコーホームルーム
カンコーホームルーム

調査対象　全国の中学校・高等学校 629校
調査方法　郵送アンケート
調査時期　2017年4～6月

キャリア教育の実施で困っていること・負担に感じることは？（複数回答可）

1位	授業時間の確保・調整	51.0%
2位	職場見学・体験（インターンシップ）受入れ企業の選定	44.7%
3位	予算の確保・調整	32.8%

4位 出張授業・講演会を行う外部講師・企業の選定 28.6%　5位 授業準備・進め方 27.5%

KANKO TIMES Vol.7

キャリア教育は学校のすぐ側に――地域の産業に関わり未来の人材を育てる

尾﨑　キャリア教育の充実を図るには、地域の多くの企業を巻き込まなければなりません。様々な業種が参画することで、幅広いキャリアを教えることができると思います。私がＪＣ（青年会議所）の理事長を務めていた時、「大人の教育」の事業を行ったことがあります。考えずに行動する大人が多いという懸念から、「何のために勉強をするのか」を改めて認識してもらおうと。まずは先生も企業も含めた大人が「何のために子どもたちを教育するのか」という意識を変えていくことが非常に重要だと思います。

長田　そうですね。これまで教育に携わって来なかった大人たちを学校教育にどう巻き込んでいくかは大きな課題です。地域の民間企業がキャリア教育に関わる一番の必要性は、子どもたちに地域には素晴らしい企業がたくさんあるんだということを知ってもらうことです。地域の未来や産業は、子どもたちが将来作っていくもの。子どもたちがキャリア教育を通じて、地域の産業に関わっていくことは、企業にとっては未来の〝同僚〟を育てることに繋がっていく。これは企業がキャリア教育に参画する大きなメリットといえるでしょう。

尾﨑　キャリア教育は「地域創生」という観点からも捉えることもできるということですね。地域の若い人材がどんどん県外に流出していく現状は、地域にとって深刻な問題です。それは子どもたちが地域の産業とあまり関わってこなかったことも、要因の一つかもしれません。地域の高校生や大学生が地元企業と関わり地域で働きたいと思える教育や環境を整備していくことは今後求められる課題でしょう。そのためにも地域の学校の先生と企業側が語り会える場を作ることが求められますね。

長田　そうですね。学校側も〝キャリア教育〟だと難しく考えずに、学校の周りに目を向けてほしいですね。キャリア教育は案外学校の近くにたくさんあることに気付くはずです。先生たちも日頃から学校に出入りし、手助けしてくれる学校外の人たちに心を開いて話し、学校教育に巻き込んでいく。そんな小さなことからキャリア教育に発展していくと思いますね。

「なんでもいい」「おまかせ」のインターンシップは時代錯誤

尾﨑　インターンシップは、学校と企業とが最もつながりやすいキャリア教育だと思います。しかしよく耳にするのは、雑用ばかりさせられたという話です。中学生だけでなく大学生のインターンシップでも同じような実態。「5日以上」という規定も廃止され、今後短期のインターンシップが増えるなか、学校側が企業に「お任せします」では、せっかくの貴重な機会が無駄になってしまいます。キャリア教育を充実させる上でも、先生方がどのようにインターンシップに関わり、企業に働きかけるかを再考する必要がありますね。

長田　子どもたちにどのような経験をさせたいのか、教員の意志をしっかり伝えることは非常に重要です。普通科進学校のある高校では、受験を控えた3年生の多くが、大学名にはこだわるが学部へのこだわりがない、医学部志望だが偏差値で選んでいるという実態に非常に危機感を感じた校長先生が、インターンシップに踏み切りました。同校の卒業生の社員がアテンドするというものでしたが、生徒たちの勉強に対する意識、働く事への意識に大きな影響を与えました。これは、学校側が卒業生である社員に今の学びがどのようにつながっているのかを教えてほしいと、きっちりと伝えていたからこその成果です。

子どもたちのどんな能力を企業に引き出してもらいたいのか、子どもたちに何を経験させたいのか、これからは教員がしっかりしたビジョンを持ち、それを企業に伝えることが重要になります。「なんでもいい」のインターンシップは時代遅れです。

どの能力を意識して育てるか――企業と学校との話し合いは不可欠

長田　学校教育で養われた資質・能力は、社会に出てから生かされていないかというと、そうではありません。経営者が抱く若手社員への不満度を調べた調査で、不満度が低いもの、つまり満足している項目を見ると「社会のルールを守ること」「学ぶことに意欲的であること」が挙げられています。同じ質問項目で教員に意識して教育している部分を聞くと、先に挙げた2項目は高い数値を表したのです。教員が意識して指導したことは、実は社会人になってから実を結んでいるのです。しかし教員の意識が低かったこと、チーム行動や主体性など社会で必要となる能力は身についておらず、経営者の不満度も高いのが現状です。

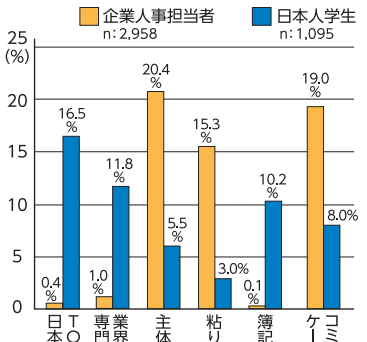
尾﨑　確かに学校教育で養った能力と社会が求める能力にズレがあることは実感しますね。商業高校や工業高校では、就職に有利だと思い資格をたくさん取らせる傾向がありますが、資格が多いとむしろ、その生徒が本当にやりたいことがブレて見えないこともあります。学校側が考える「これが就職後に役立つ」という資質・能力と、企業が身につけてほしい力にはギャップがあることを先生たちにも認識していただきたいですね。学校側と企業側が教育について話し合う場を持つことは、キャリア教育の充実という観点からも欠かせないと思います。例えば、キャリア教育を体験した社会人を講師に講演会や学びの場を開催し、そこに先生たちも参加してもらうなど、企業と先生が互いに話し合い、認識を共有していけるお手伝いも考えていきたいですね。

長田　ズレがある能力として具体的なものはありますか。

尾﨑　やはり論理的思考でしょうか。社会に出れば他人に口頭や文書で仕事や企画を説明しなければならない場面は必ずあります。論理立てて説明できなければ、相手を納得させることはできません。学校教育でそこをしっかり教えていただきたい。

長田　論理的思考こそ、これから求められる資質・能力。暗記・再生だけの学習だけでは、これからの社会生活・職業生活には通用しません。論理的思考を子どもたちに身につけさせるために基礎的な役割を果たすのが、キャリア・パスポート。自分の学びのプロセスを把握し、先を見通して、振り返るためには、言語化することが非常に大切です。キャリア・パスポートを活用し、日々の学びを記録していくことで、論理的思考を身につけさせる、はじめの一歩を踏み出させる。これは大人になるための訓練でもありますね。

学生に不足していると感じる能力について
（企業と学生の意識のズレ）



出典：経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」（平成21年度）より作成

学校現場の先生へ

長田　キャリア教育は子どもたちのためにあるものですが、実践して一番心を動かされるのは大人です。子どもから率直な声をかけられると教育に携わることの尊さを覚え、またやろうという気持ちになる。そういう好循環が生まれることで、キャリア教育は充実していくのです。教員も企業の社員も「成功体験」を多く積んでいくことが、キャリア教育を浸透させるカギになります。先生たちには学校の扉だけでなく、心の扉も開いて、企業や地域の人たちと〝人づくり〟を一緒にしていく体制を整えていただきたいですね。

尾﨑　キャリア教育に取り組むとなると、ヒントがほしいとか何が足りないとか、不安や疑問がたくさん出てくると思います。私たちはその声一つ一つに耳を傾けてサポートしていきたいと考えています。カンコータイムズを通じて、全国の先生方とつながることで、各校のキャリア教育の充実に少しでもお力添えしていきたいですね。

WEB限定で下記テーマについてのキャリア教育対談も公開中です。

- 先生の多忙を乗り越える
- 教育から地域に活力を
- 発達段階に応じた指導
- 保護者や部活との関係

詳しい情報はこちらよりご覧ください。
カンコー学生服

KANKO TIMES Vol.7

スクールイノベーション
学校革命!

青森県立金木高等学校
藤澤 重信 校長

地域に学校がある意義を見つめ直す

～地域の魅力を学校の魅力に～

「太宰治学習」や津軽三味線部など、地域に根ざしたキャリア教育を展開している青森県立金木高等学校。その取り組みについて藤澤校長にお話をうかがいました。

青森県西北地域は産業に乏しいためか、本校を卒業した子どもたちの多くが県外へ出て行ってしまいます。金木町に残るのは全体の2割以下。また地元で就職したとしても、離職率が高いことが課題になっています。

金木町は太宰治の生誕地であるほか、津軽三味線発祥の地であるなど、誇るべき魅力を持つ町です。しかし、残念ながら生徒たちにあまりその魅力が理解されていない。自分の郷土を誇りに思えるような地域の財産を知らないまま、県外に出て行ってしまうのは実にもったいないことだと思います。

地域の財産を学ぶ

そのため本校では、学校教育の中で生徒たちが地域の魅力に触れられるような場を設けています。そのひとつが「太宰治学習」です。毎年芦野公園で行われる太宰治生誕祭には、昨年度は金木太宰会会長による事前授業を受けた上で全校生徒が参加、今年度は青森県近代文学館室長による講演を行いました。また、太宰作品読書感想文入選作を朗読します。冬休みの宿題としても、太宰作品をテーマにした金高太宰カルタを制作させています。

また金木の子どもであれば一度は津軽三味線に触れてほしいという思いから、平成13年に津軽三味線部を発足。本校の卒業生が外部講師として指導に当たっています。いずれは全校生徒に、音楽の授業で邦楽の学びとして津軽三味線を体験させられるようにしたいと思います。

地域の魅力を学校の魅力に

こういった地域の財産を生かした教育活動に取り組むことが、本校独自の魅力とPRにつながると考えます。津軽三味線部の人気と知名度は高く、東北新幹線の開業イベントや「走れメロスマラソン」といった県内の様々な催し物に招かれ演奏しています。そうした活動の様子を収めたPRムービーを作成。中学生向けの説明会などで活用しています。自分の郷土について知ることは基礎的で大切な学びですから、今後も本校でしか学べない地域の財産を生かした教育を学校の魅力として発信していきたいですね。

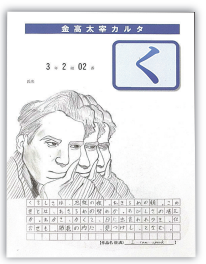
（取材／西中学）

津軽三味線部からのコメント

◎イベントで演奏したときの地域の方の応援がとても嬉しいです。
◎津軽三味線はバチの持ち方が特別なのでそこも注目してみてください。

NPO法人かなぎ元気倶楽部 理事
キャリア教育コーディネーター
斎藤 真紀子さんからのコメント

PTA会長として学校に関わってきましたが、学校と地域が連携した教育活動が全ての保護者に浸透しているとはまだ言えません。今後は更に地域や保護者を巻き込んだ活動になるようキャリア教育コーディネーターとして母校をサポートしていきたいです。



金高太宰カルタ（きんこうだざい）
作品「くるしさは、忍従の夜」
※詳細はWEBで公開中

キャリア教育取り組み実例

外部リソースを活用して子どもたちの「体験値」を積ませる

～クロスフィットを活用して体力と団結力を育む～

鹿児島県薩摩川内市の、川島学園れいめい中学校・高等学校。社会変化の中で、子どもたちが実際に何かを「体験できる場」が減少していることを課題と捉え、様々な取り組みを導入し生徒たちの体験値を高めています。今回は学校が特に重要視する、「こころ」と「からだ」の鍛錬につながる新たな取り組み「クロスフィット」を紹介します。

クロスフィットで体力と団結力を育む

れいめい中学校・高等学校
徳留 秀樹 校長

成長過程の子どもたちに「体験値」を積ませるため、キャリア教育の視点で様々な取り組みを進めています。その一環としてこの4月から導入したのが「クロスフィット」というフィットネス・プログラム。外部講師としてトレーナーを月に2回招き、中学3年生の全生徒とサッカー部にトレーニングさせています。

以前から生徒の体力の二極化が課題でした。部活動で日常的に運動している生徒がいる一方で、登下校も送り迎えで歩くことすら少ない生徒もいます。大学受験を乗り越え、社会に出て生き抜いていくためにも体力づくりは重要です。

また子どもたちを取り巻く環境の変化も課題。子どもたちを地域全体で育てていく、地域の教育コミュニティーが希薄化しているように感じます。生徒間においても、上級生を敬い、下級生の手本となるような上下関係が大切にされなくなっているようです。

クロスフィットを導入することで、特に普段体を動かさない生徒の体力を上げ、運動習慣を身につけさせたいです。コミュニティーを作ってトレーニングするので、団結力が育まれ、上手な生徒がそうではない生徒を支えてあげる流れが生まれればと期待しています。

また外部の講師と触れ合うことで、礼儀や対応能力を学べます。教員も、トレーナーの指導方法を授業の参考にしてもらえればと思います。サッカー部では、腿の筋肉が厚くなるなど、すでに成果を実感している生徒がいます。

まずは1年後の生徒の成長を記録します。それらのデータで保護者の関心を高め、家庭での食育にもつなげていければと思います。教員にも資格を取得させ、地域の方々を対象とした出前授業などで教育コミュニティーを広げていきたいですね。

（取材／大塚恭朗）

クロスフィットとは

クロスフィットトレーナー
畑瀬 太郎 さん

福岡県でクロスフィット博多を経営。平成29年4月より外部講師として月2回学校を訪問、体育と部活指導に携わっている。

プログラムを工夫し運動の習慣化を目指す

クロスフィットとは、健康な体づくりを目的とするフィットネス・プログラムです。アメリカで生まれ、リーボックと提携して世界的に広まりつつあります。

クロスフィットに取り組むことで、子どもたちの基礎体力がアップするのはもちろん、団結力も高まるでしょう。「クロスフィットはコミュニティー」という言葉もあり、グループで一丸となって同じ課題に取り組む中で、上級者が初級者にコーチングするという動きが生まれます。また楽しんで取り組んでもらうため、プログラムにゲーム性を取り入れています。楽しく継続していくことで、生涯にわたる運動習慣を身につけられるよう期待していますね。

サッカー部への導入

沖田 遼太郎 監督

- クロスフィットを毎日の基礎練習と位置付けて導入しています。トレーニングを続け、キック力が向上した生徒もみられます。
- 自分でも資格を取り、畑瀬トレーナーがいないときの練習の質を高めていきます。またサッカー部以外の部活にも展開し、効果を広めていきたいと考えています。

中学3年の体育への導入

松田 友里香 先生

- 運動が苦手だった生徒たちが前向きに体育に取り組むようになりました。体育以外の授業でも、おとなしかった生徒たちが明るくなり、また自分の意見をはっきり言えるようになっています。
- トレーナーの声掛けのタイミングや雰囲気づくりを、自分の授業の参考にしています。

KANKO TIMES Vol.7

キャリア教育取り組み実例

「探究型学習」をきっかけに、主体的・対話的で深い学びを育む

探究型学習を通じて、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを育む取り組みを進める東京都の富士見中学高等学校。教育活動の一環として取り組む「キャリア甲子園」を通じて、企業との交流の中で生徒の探究心を育むキャリア教育を実践されています。

外部のリソースを活用し企業と交流することで生徒の探究心を育成

富士見中学高等学校
大関 朝美 先生

学校内での教育に加え、生徒が外の世界を知り、社会の仕組みを学べるきっかけを持たせたいと、本校では3年前から「キャリア甲子園」に参加しています。私は昨年度、高校1年生の進路担当者として関わりました。

本校では、人間味のある生徒、将来社会で活躍できる女性を育てたいという思いから、探究型の学習の導入を進めています。「キャリア甲子園」は課題に対し、事業プランを企画しプレゼンするという探究型学習の要素を含んでいます。更に、このプログラムは、授業の一環として全員が取り組むのではなく、自由参加型の課外活動と位置付けているため、参加した生徒たちは、自分の責任のもとやり遂げねばなりません。夢物語のような企画を実現可能にするため、企業に問い合わせたり、細かく計算したりと試行錯誤を繰り返していました。「企業にアイデアを採用してもらいたい」という高い目標があったからこそ、最後まで積極的に取り組めたと思います。その結果、一次審査の書類選考では、全国で2番目に多い9チームが通過しました。

「キャリア甲子園」を通じて、主体的な学びやチームワークを学べたことはもちろん、自分のアイデアを他者が納得するように組み立てる「論理的思考」が自然と身についたと感じています。彼女たちは教科で学べる以上の知識を自分たちで発見し、知らず知らずのうちに「主体的・対話的で深い学び」を実践していたと思いますね。

私たち教員は、なるべく「教えない」というスタンスで臨み、質問されてもアドバイスし過ぎないよう心がけています。生徒は、主催者であるマイナビのスタッフの方々や様々な企業の方々からのアドバイスを受けながら課題に取り組んでいました。こうした外部の方々とのやりとりは、生徒にとって大きな刺激になったようで、一つ一つのアドバイスを真剣に聞き入っている様子が印象的でした。

「キャリア甲子園」のような外部のプログラムを課外活動に取り入れることで、効果的にキャリア教育に取り組めたと感じています。今回の成果は生徒にとっても、私たち教員にとっても大きな収穫となりました。

（取材／中村広正）

「キャリア甲子園」とは？

マイナビが2014年より主催する高校生を対象にしたビジネスコンテスト。参加企業等から出題された課題に対し、高校生がチームで事業プランを企画し、プレゼンします。一次審査は書類選考、二次審査はプレゼン動画審査をしてテーマごとに5チームを選出。準決勝で企業等に直接プレゼンし、決勝大会で優勝を争う5チームが選ばれます。

参加した生徒のコメント

チーム ふるふる
米村 渚さん

学校の外に目を向ければより多くのことを学べると思い、参加を決めました。勉強と部活、「キャリア甲子園」と、かなり大変でしたが、複数のことを効率的に進める方法も学べたと思います。いま学んでいることが将来につながっていることが意識でき、嫌いな教科でもプラスに考えて取り組めるようになりました。

チーム カーボミオシー
山口 あさ美さん

「キャリア甲子園」の決勝の映像を見て、自分も挑戦してみたいと思いました。企画が実現可能なのか、企業に直接問い合せするなど、外部の人と直接話すという貴重な経験ができました。取り組むことで自分は新しい何かを考え出すのが好きなんだと気づき、将来の目標を見つけることができました。

チーム らーのこ
菊池 杏里さん

はじめはあまり興味がなかったのですが、一次審査を通過したことで、今まで取り組んできたことは無駄じゃなかったと思い、それからのめり込みました。企画の実現可能性と高校生ならではのワクワク感をどうまく折り合わせていくか難しいところもありました。挑戦すれば道が開かれることを身をもって学んだ気がします。

「答えのないことを探究する」と「企業にプレゼン」を組み合わせたプロジェクト

参加費無料　PBLコンテンツ

HIGHSCHOOL STUDENTS
キャリア甲子園 2017
MEET BUSINESSES AND CHALLENGE QUESTIONS WITHOUT ANSWERS. IT WILL GIVE YOU A NEW AWARENESS THAT YOU HAVE NEVER EXPERIENCED.
CAREER DESIGN CONTEST

キャリア甲子園は、株式会社マイナビが運営するMY FUTURE CAMPUSによる高校生向けビッグプロジェクト。高校生がチームを組んで企業からのテーマに挑戦する**ビジネスアイデアコンテスト**です。貴校のキャリア教育の一環として授業に取り入れてご活用いただけます。

7/3（月）～　プレエントリースタート

■昨年度実績　プレエントリー数：2,647名　エントリーチーム数：673チーム
■昨年度のテーマ出題企業等　資生堂・帝人・内閣人事局・日本航空・バイエル

お問い合わせ・お申し込み：株式会社マイナビ 地域活性事業部／MY FUTURE CAMPUS運営事務局 TEL:03-6628-5061※お問い合わせ対応時間は平日10:00～17:30です。
e-mail：com-staff_mfc@mynavi.jp　キャリア甲子園2017 http://careerkoshien.mycampus.jp/　MY FUTURE CAMPUS https://mycampus.jp/

カンコータイムズのアンケートに答えて
抽選でプレゼント！

❶ 学校の魅力紹介セット
《フォトフレーム＋SDカード(32GB)》
［パイオニア］　［SONY］　5名様

❷ キャリア教育入門書
《新時代のキャリア教育》
［東京書籍］　30名様

応募方法　同封のアンケート用紙またはWEBの応募フォームよりご応募ください。（応募締切／2017年9月15日）

WEB応募フォーム

KANKO
発行：菅公学生服株式会社 教育ソリューション事業本部内
一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会 事務局 カンコータイムズ編集部
メールアドレス：k-solution@kanko-gakuseifuku.co.jp
TEL：086(898)2590　FAX：086(898)2513
カンコー学生服

ご意見・ご感想、取材のご希望についてはメールアドレスもしくはWEBにて受付を行っております。
カンコータイムズはこれからも不定期に発行していきます。
次号をお楽しみに。
カンコータイムズ vol.7　2017年7月発行